

式 辞

満開の桜と木々の新緑、美しい草花がうららかな日差しに映えています。春爛漫のこのよき日に、同窓会名誉会長様、父母教師の会副会長様、さらに多くの保護者の皆様にご臨席をいただき、ここに令和七年度滋賀県立膳所高等学校入学式を挙行できますことは、私たち教職員、在校生にとりまして大きな喜びでございます。

ただいま入学を許可しました、普通科320名、理数科40名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。教職員を代表して、入学を心から歓迎いたします。

皆さんが入学した膳所高校は、明治31年(1898年)、滋賀県第二尋常中学校を起源とし、明治から大正、昭和、平成、そして令和と、百二十有余年の歴史を刻む県内屈指の伝統ある進学校です。

本校の校訓は『遵義・力行』(『じゅんぎ・りょっこう』)です。『遵義』とは「誠実な心で、心理と正義を追求し、人類の未来に貢献しよう」と決意することであり、『力行』とは「自主・自立を尊び、心身を鍛え、高い理想に向かおう」とすることです。この教育理念の下、その時代が求めるリーダーを育てる教育を行ってきたのが膳所高校であります。

その伝統を引き継いでいくとともに、新しい時代を切り拓いていく皆さんに、次の「2つの言葉」を送ります。

1つ目の言葉は、「とにかく膳所高生活を全力で楽しめ」ということです。

膳所高校には、皆さんがこれからの人生を送る上で、その土台となる「基本」を身につけるための最高の環境が用意されています。膳所高校での生活すべてを楽しんでもらえさえすれば、高校生としての最高レベルの知識はもちろんのこと、忍耐力や協調性、共感性といった、非認知的スキルを含む「基本」が身につく環境、すなわち皆さんを大人へと鍛え上げる環境がここにはあります。ですから、皆さんはとにかく膳所高生活すべてを思いっきり楽しんでほしいのです。

ただし、楽しむためには秘訣、コツがあります。

まずは、自分でタイムマネジメントができるようになることです。やりたいこと、やるべきことがたくさんある皆さんには、様々な状況下でそれらを適切に整理できなくてはなりません。もちろん、はじめは難しいでしょう。でも、やりながら自分なりの時間の使い方を見つけ出してください。

次に、仲間と共に学び、切磋琢磨することです。高校であっても大学であっても、学びの環境として大事なことの1つに、「誰と学ぶか」があります。高校や大学を選択することは、すなわちどんな生徒集団、学生集団の一員になるかを選ぶことでもあるのです。膳所高を選んだ皆さんは、ここで出会った仲間と、議論し、教え合い、励

まし合い、助け合い、遊ぶことができます。その生活こそが、皆さんにとってかけがえのない成長の場となります。

さらに、膳所高生活すべてに本気で取り組むことです。全人教育や教養主義を標榜している本校は、勉強はもちろん、伝統の学校行事や部活動も、どれも皆さんが本気でチャレンジするにふさわしい、質と難易度を誇っています。一人ではあまりにも過酷で困難に思えるものも多くあります。でもそれは「智・徳・体」をバランスよく鍛えるための仕掛けです。目先の成果ばかりを追って小さくまとまることなく、何十年も先を見据えてとことんチャレンジせよというメッセージです。もっとやれる。もっと完璧に、という気持ちで取り組んでください。

2つ目の言葉として、次の言葉を紹介します。

考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、
習慣は人格となり、人格は運命となる

これは、イギリス初の女性首相であったマーガレット・サッチャー氏の言葉です。この言葉をどのように解釈するかは皆さん自身ですが、私は、「小さな行動の積み重ねが大きな成果につながっていくのだから、頭の中で考えるだけでなく、実際に行動し、その行動を継続することを心がけよう」と理解しています。

これからの膳所高生活を通じて、「夢を形にする」すなわち、自分の人生を自分自身で創って行ってください。

最後になりますが、保護者の皆様におかれましては、重ねて入学のお慶びを申し上げます。膳所高が持つ輝かしい伝統と、様々な仕掛けを駆使し、必ずやお子様を、心身共に逞しい大人の青年へと導いてまいるつもりです。是非、膳所高の教育力を信頼していただくと共に、何かございましたら遠慮なくご連絡をいただき、家庭、地域、学校とでお子様の成長に向けて、歩調を合わせてと取り組んでいけたらと思っております。何とぞ、ご支援とご協力をお願いいたします。

それでは、皆さんが膳所高生活を全力で楽しみ、夢を形にしてくれることを心から願い、私の式辞といたします。

令和7年4月8日

滋賀県立膳所高等学校
校長 横井 正弘